民生委員・地域福祉コーディネーターの確保、支援体制が必要！

民報 おうしゅう 読者版

発行
赤旗奥州出張所
水沢大手町三丁目
５９番地
Tel　24−2021
Fax　24−2049

９月28日、閉会した奥州市議会第３回定例会（９月議会）では、令和７年度決算審査が決算審査特別委員会（今野裕文委員長）において行われました。今号では、福祉・教育・健康子ども・医療部門の質疑の一部を紹介します。

福祉

重層支援、福祉の要となる地域福祉コーディネーターや民生委員の支援強化が必要

千田美津子議員は、高齢者や障がい者、子ども、貧困など家庭内の複雑な課題に対応する重層的支援体制の充実について質問。要となる地域福祉コーディネーターや民生委員の担い手不足への対応として、仕事内容の周知や制度面でのバックアップなど支援体制の強化が必要ではないかと質しました。



千田美津子　議員

会議等に参加し、意見を聞きながら伴走支援に努める

担当者は、地域福祉コーディネーターや民生委員の会議に参加し、連携を図りながら伴走支援するとともに、民生委員の確保に向けて、活動内容の周知に努める、と述べました。



佐藤美雪　議員

教育

不登校児童生徒数…小学校71名、中学校151名　保護者支援に力を

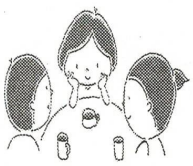
佐藤美雪議員は、不登校やいじめの現状と支援体制について質問。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの増員と保護者支援として「介護休暇取得ができることの周知」等を求めました。

不登校の子を持つ保護者のつどいを開催

教育委員会は、不登校の児童生徒支援相談員を１人増員し、中学校においては、不登校生徒が６年度より減る結果となった。引き続き、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの増員を県に要望している。保護者支援としては、つどいを２回開催している、と述べるにとどまりました。

校外での児童・生徒指導の現状は？

中学生のみでの複合商業施設入店禁止措置…



佐藤美雪議員は、８月に市内複合商業施設が中学生のみでの入店を禁止したことを受け、報道によると、店舗では１年前から生徒らによる迷惑行為があり、相談していたとのことで、教育委員会の把握状況や指導の実態について質しました。

８月の入店禁止措置が出るまで、把握していなかった…

教育委員会は、入店禁止措置が出されてから把握した。学校にはすでに情報があり、指導していたと述べました。校外指導については市の少年センターが主に警察や学校等と連携して行っている。地域との連携、情報共有など対応を考えていきたい、と述べました。

この問題については、千田美津子議員も「子どもたちの居場所づくりなど、心に寄り添い支援していくことが必要ではないか」と主張しました。

健康子ども

国民健康保険の基金は上振れ　今後10年以上は残高が残る　国保税は値下げすべき



千葉　敦　議員

千葉敦議員は、国民健康保険特別会計において、国保基金の取り崩しが予算額より減ったことや、基金自体が13億6900万円ほどあることを指摘し、「おそらく10年以上はかなり残高が残るのではないか。本来の特別会計の運用として国保税の引き下げに使うべきだ」と質しました。

県の運営方針見直しが行われるのに合わせ、市としても検証を進める

担当者は、県の運営方針が今年度見直されるのに合わせ、市としても、基金の活用も含めた財政状況の検証を進めている、と述べました。



ヤングケアラー、困難を抱える妊産婦や保護者の支援策は無償に

佐藤美雪議員は、子育て支援訪問事業（家事・子育てに対して不安・負担を抱える家庭、妊産婦、ヤングケアラー等がいる家庭を訪問し、家事育児等の支援を行う）について、実施状況について質しました。

生活保護世帯以外は利用料がかかるため、支援は受けない…という声も

担当者は、７年度における事業の実施はなかったが、「利用料がかかるなら支援は受けなくていい」という声があった。重要性の高い事業であるため、無償化できる形を検討していると述べました。

医療部門において郷右近市長は、議員の「病院事業管理者を早期に置くべき」との質問に対して、「現在（赤字という）市の医療に関して、様々な考えがある中で、**水沢病院を潰してしまえ**であったり、市の医療機関をどのように作り上げていくか考えていきたい（中略）」との発言に、傍聴者を含む議場内は唖然！閉会後、市長に発言について詰め寄る議員も。